

平成 30 年度

港北区内で行われる主な整備事業



平成 30 年 4 月 港北区役所

目次

■ 鉄道・道路・橋りょう

1	神奈川東部方面線の整備	1
2	新羽車両基地の有効活用	2
3	都市計画道路の整備	2
	(1) 綱島街道の拡幅（一部）	
	(2) 宮内新横浜線（新吉田高田地区）	
	(3) 宮内新横浜線（新吉田地区）	
4	地域道路の整備	3
5	橋りょうの長寿命化の推進	3
6	河川施設の計画的管理	3
7	歩道橋の耐震対策	3
8	歩道橋の老朽化対策（菊名歩道橋の撤去）	3
◇	道路位置図：都市計画道路	4
	：地域道路	5

■ まちづくり

1	新横浜都心部のまちづくり	6
2	新横浜駅南部地区のまちづくり	6
3	綱島駅東口周辺地区のまちづくり	7
4	日吉台小学校第二方面校（仮称）の整備	7
5	菊名駅におけるバリアフリー化の推進	8

■ 上下水道の整備

1	下水道の整備	9
	(1) 下水道管の整備・雨水幹線の整備	
	(2) 水再生センター等の整備	
	(3) 未整備地域の解消	
2	上水道の老朽管更新・耐震化	9

■ みどり・環境

1	公園の整備	10
2	公園の改良等	10
3	緑地等の保全（緑地保存地区、源流の森保存地区、市民の森、特別緑地保全地区）	10
4	スマートシティの構築	10

■ 施設

1	文化施設整備事業	10
2	地域施設の整備	10
3	公衆トイレ整備や喫煙所の整備	10
4	横浜国際総合競技場の整備	11

■ 鉄道・道路・橋りょう

1 神奈川東部方面線の整備

神奈川東部方面線のうち「相鉄・JR直通線」(西谷～羽沢間)は、31年度下期の開業に向けて、西谷駅やJR線との接続部である横浜羽沢貨物駅構内での改修工事のほか軌道、建築、機械、電気工事を進めます。

また、「相鉄・東急直通線」(羽沢～日吉間)は、34年度下期の開業に向けて、トンネル掘削工事や地下駅舎工事などが本格化しており、ブルーライン新横浜駅との交差・接続に関する工事等を進めています。30年度は新たに新横浜駅(仮称)～新綱島駅(仮称)間のトンネル掘削工事に着手します。

神奈川東部方面線の路線概要図



神奈川東部方面線

整備延長 : 約12.7km
事業費 : 約4.022億円
整備主体 : (独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構

西谷～羽沢間(相鉄・JR直通線)

整備延長 : 約2.7km
開業予定時期 : 平成31年度下期
営業主体 : 相模鉄道(株)

羽沢～日吉間(相鉄・東急直通線)

整備延長 : 約10.0km
開業予定時期 : 平成34年度下期
営業主体 : 相模鉄道(株)、東京急行電鉄(株)

2 新羽車両基地の有効活用

28年度に公募により決定した事業者が、食とスポーツをコンセプトとして、1階高架下に食品の物流倉庫と野球スクール、3階屋上に総合グラウンド（フットサルコート6面分）等のスポーツ施設及びレストラン・カフェ、屋上広場等を整備します。30年内のオープンに向けて、施設整備を進めています。



3 都市計画道路の整備 (P.4 道路位置図)

《完成イメージ》

(1) 綱島街道の拡幅

神奈川東部方面線新綱島駅（仮称）の整備の状況等を踏まえ、綱島駅から北綱島交差点までの区間について、拡幅事業に着手します。30年度は測量・設計等を行います。

(2) 宮内新横浜線（新吉田高田地区）

新吉田地区から日吉元石川線までの960mのうち、29年度は新吉田側の都市計画道路の築造工事および早淵川渡河部の橋台築造工事や橋桁製作を進めました。30年度も引き続き橋梁架設工事を進めるとともに、本線を横断するトンネル築造工事、橋梁アプローチ部の地盤改良工事及び擁壁工事等を進めます。

(3) 宮内新横浜線（新吉田地区）

既に完成している新羽新吉田地区から新吉田線との合流地点付近までの350mについて、30年度は山切り工事に着手するとともに、引き続き道路整備に必要な用地の取得、地元調整、関係機関協議、設計及び測量等を進めます。

4 地域道路の整備（歩道拡幅・道路改良）（P.5 道路位置図）

川向第 39 号線（大竹道路）について、引き続き用地取得した箇所において設計及び拡幅工事を進めるとともに、新たに、市道箕輪 159・161 号線の歩道拡幅事業に着手します。

また、横浜生田線、綱島第 243 号線、新吉田第 441 号線、下田第 97 号線、綱島第 295 号線については、引き続き測量、用地取得等交渉を行い、改良事業を進めます。

5 橋りょうの長寿命化の推進

橋りょうを計画的かつ効率的に維持管理するため、29 年度に引き続き樽綱橋等の耐震補強工を行います。国際競技場大橋については補修工事を、稲坂橋については塗装工事を進めます。

6 河川施設の計画的管理

河川施設の治水機能の維持及び老朽化対策として、30 年度も継続して砂田川の計画的な浚渫（しゅんせつ）（堆積土砂の除去）工事や鳥山川の計画的な護岸補修工事を進めます。

7 歩道橋の耐震対策

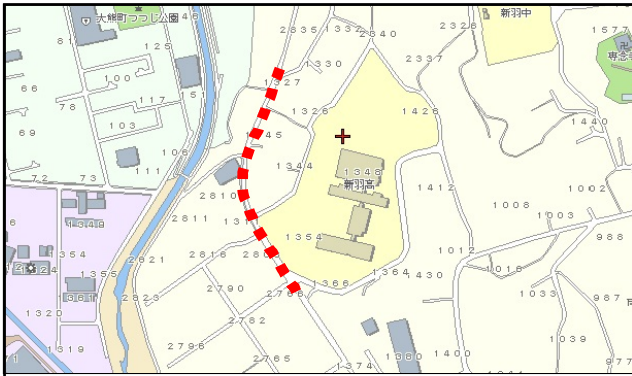
大規模地震時における、救助・支援・復旧活動に必要な緊急輸送路等の通行機能を確保するために、歩道橋の耐震補強工事を計画的に進めます。

30 年度は、引き続き新横浜歩道橋の工事を行うほか、新たに大豆戸町歩道橋の工事を進めます。

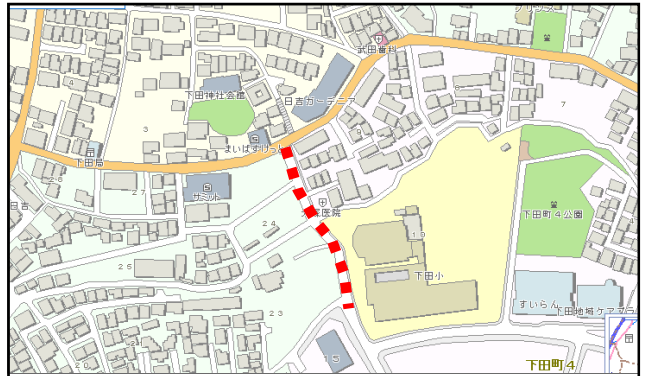
8 歩道橋の老朽化対策（菊名歩道橋の撤去）

菊名歩道橋については、多くの方が横断歩道を利用していることから、歩道橋の撤去を行い、安全な交差点となるよう検討を進めます。30 年度は、関係機関との調整を進めます。

4 地域道路の位置図



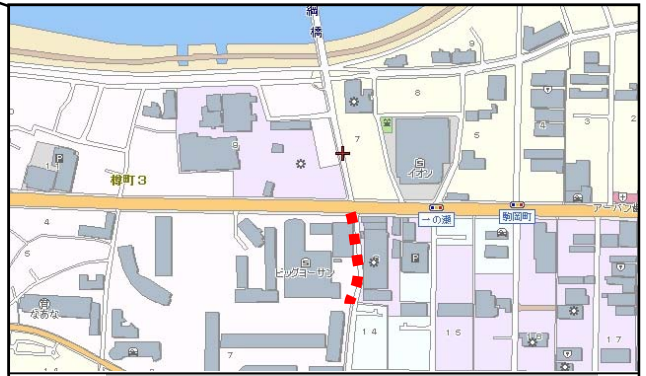
川向第39号線(大竹道路)



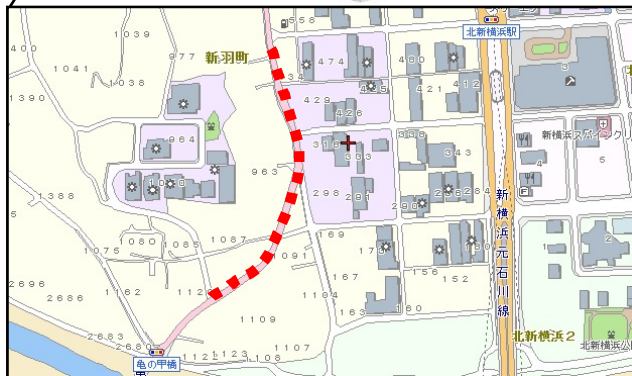
下田第97号線(下田小西側)



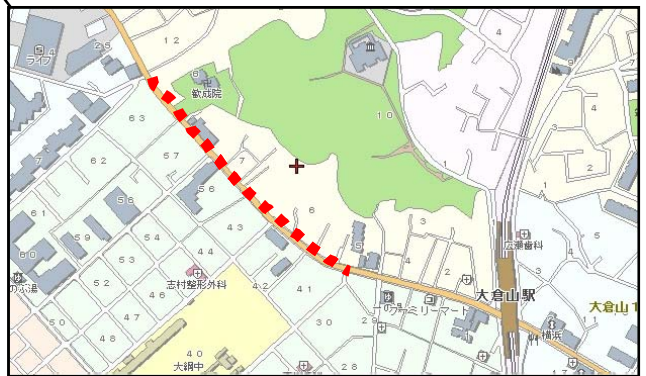
箕輪159・161号線(日大高校入口交差点付近)



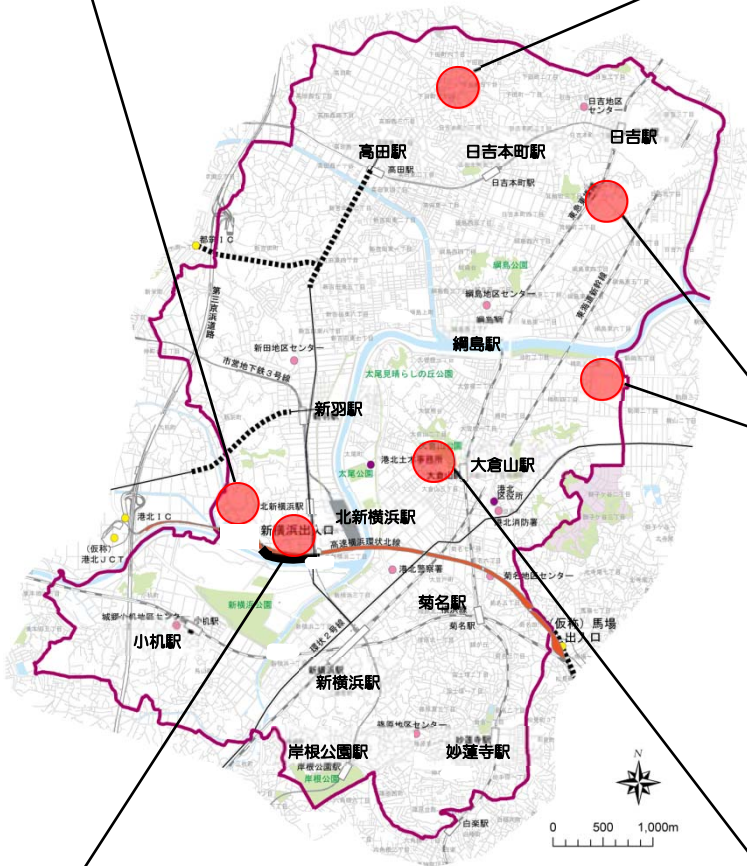
網島第243号線(ビッグヨーサン東側)



横浜生田線(新羽町南台バス停付近)



新吉田第441号線(エルム通り、オリーブ通り)



■ まちづくり

1 新横浜都心部のまちづくり

世界的なイベント開催、高速道路や新たな鉄道の開通など、大きな動きがある新横浜都心部（新横浜地区、新羽地区、城郷地区、羽沢地区）について、今後のさらなる発展に向け、まちづくりの方向性を検討します。

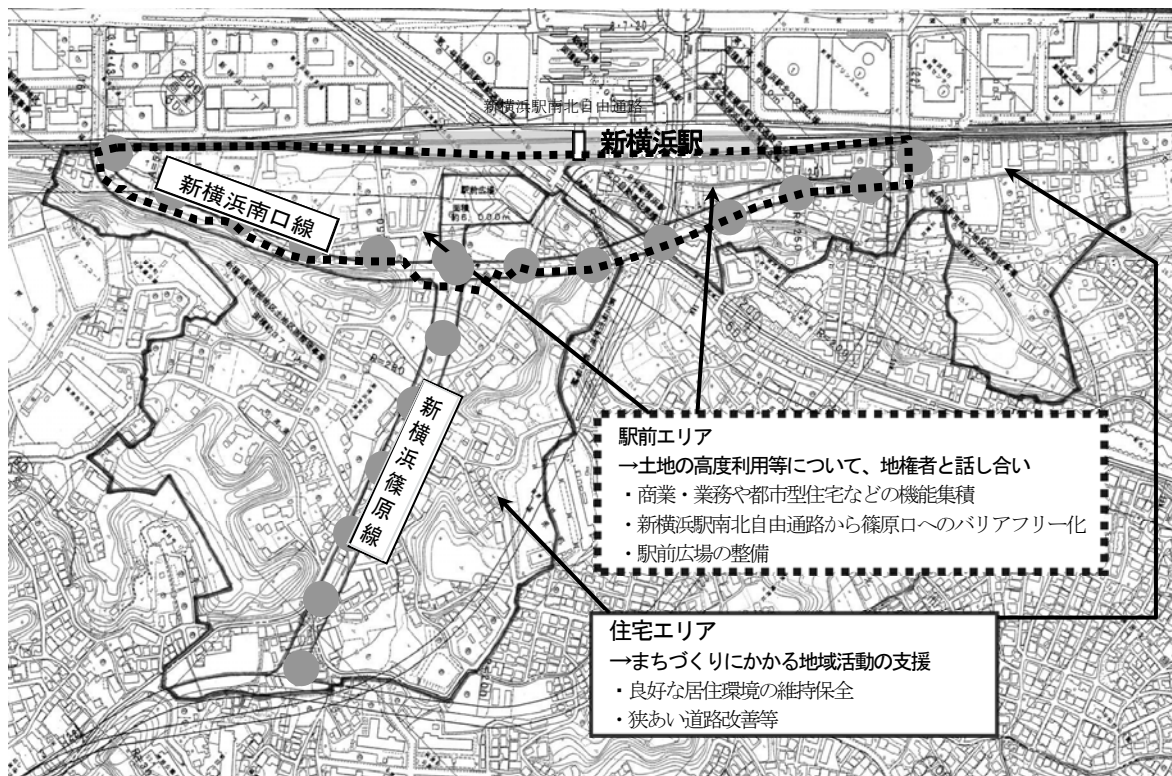
29年度は、今後迎える都市環境の変化を捉え、4地区それぞれに求められる都心機能を整理するために必要な基礎的調査を進めました。

30年度は、調査結果を基に、都心機能を整理し、まちづくりの方向性をとりまとめていきます。

2 新横浜駅南部地区のまちづくり

地域の合意形成を重視してまちづくりを進めていきます。

駅前エリアのうち駅直近では、平成30年3月に再開発準備組合が設立しました。準備組合の活動を支援しながら、市街地再開発事業の具体化に向けて地権者と協議を進めます。駅直近エリア以外についても、都市計画道路の見直し等、地区全体のまちづくり計画を検討します。



●●●●● 都市計画道路の見直し
→現在の地形、宅地の高低、現況道路の位置などを考慮

3 網島駅東口周辺地区のまちづくり

相鉄・東急直通線の新網島駅（仮称）整備にあわせ「土地区画整理事業」と「市街地再開発事業」によるまちづくりを一体的に推進します。土地区画整理事業によりバス乗降場や網島街道等の都市計画道路を整備し、市街地再開発事業で商業、公益施設及び都市型住宅などの機能集積を図ります。29年度は、土地区画整理事業の「工区分け」の手续や用地取得等を進めるとともに、再開発ビルの基本設計などを進めました。

30年度は、引き続き用地取得を行い、第一工区の仮換地指定を行います。これにあわせ市街地再開発事業の組合設立認可手続や再開発ビルの実施設計を行います。また、網島駅東口駅前地区の市街地再開発事業を検討支援するとともに、関連公共施設の検討を行います。



【土地区画整理事業】

施行者	横浜市
施行面積	約 2.7ha
施行期間	平成 28 年度～35 年度
総事業費	約 59 億円
公共施設	都市計画道路、区画道路 等

【新網島駅前地区市街地再開発事業】（予定）

施行者	組合
施行面積	約 0.6ha
主な施設	商業施設、都市型住宅 公益施設（区民文化センター）等

【網島駅東口周辺地区整備事業】

- ・ 網島駅東口駅前地区市街地再開発事業の検討支援
- ・ 網島街道の立体横断施設等の設計等
- ・ 地下自転車駐車場の整備

4 日吉台小学校第二方面校（仮称）の整備

日吉・網島地区では、新たな産業の進出や工業地からマンションなどの住宅地への転換が進んでいます。住宅開発等に伴い、網島東小学校や日吉台小学校などの教室数が不足して児童の受入ができなくなることから、小学校の新設を進めています。

32年4月に新設校を開校するため、29年度は実施設計を行い、30年度と31年度に工事を実施する予定です。

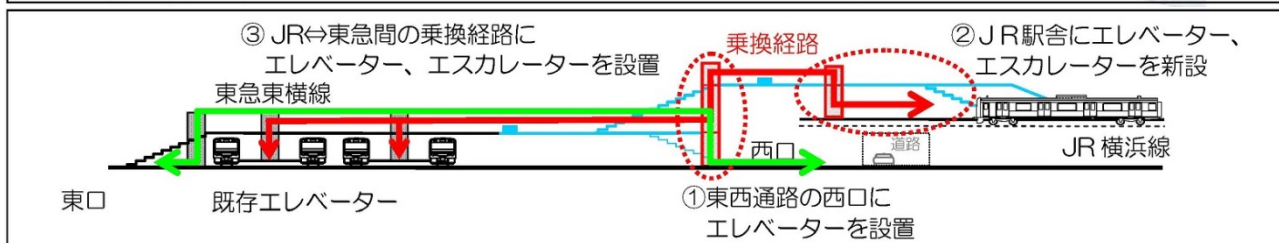
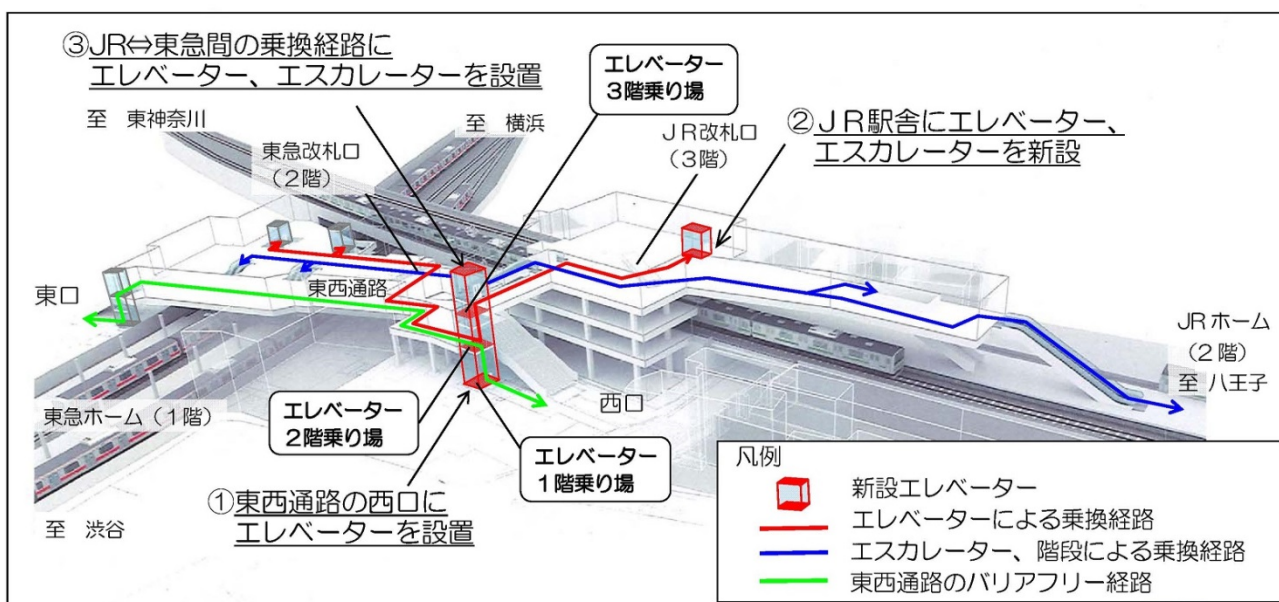
5 菊名駅におけるバリアフリー化の推進

菊名駅東西通路について、バリアフリー化のため、①東西通路の西口にエレベーターを設置、②JR 駅舎にエレベーター・エスカレーターを新設、③JR⇄東急間の乗換経路にエレベーター・エスカレーターの設置を行いました。30年2月より全面供用を開始しています。

【施行者】 JR東日本、東急電鉄、横浜市

【事業年度】 22年度～30年度（29年度供用済み）

【事業内容】 JR横浜線菊名駅駅舎のバリアフリー化・・・JR
 JRと東急の乗換通路整備・・・JR・東急
 東西自由通路のバリアフリー化・・・横浜市・JR・東急



↑ 東急線から横浜線への乗換通路

■ 上下水道の整備

1 下水道の整備

(1) 下水道管の整備・雨水幹線の整備

新横浜地区において、浸水被害軽減のため新横浜駅前第二幹線（詳細検討中）の延伸に着手します。また、災害時における地域防災拠点の排水機能を確保するため、災害時下水直結式仮設トイレ（災害用ハマッコトイレ）の整備を進めるほか、地域防災拠点につながる下水道管の耐震化を進めます。

(2) 水再生センター等の整備

港北水再生センター等において、施設の耐震化や設備の再整備を進めます。



▲港北水再生センターと鶴見川(航空写真)

(3) 未整備地域の解消

31年度末の港北区篠原地区の未普及地域解消に向けて、引き続き下水道管の整備を進めます。

2 上水道の老朽管更新・耐震化

昭和40年代に布設し、更新時期を迎えているこれらの管路を中心に、老朽化した配水管を計画的に耐震管に更新するとともに、新たな管網を整備します。

また、災害時に重要となる拠点施設につながる管路や腐食性土壌※に埋設されている管路については、優先的に更新し、効果的な耐震化や漏水事故の予防保全を図ります。

※腐食性土壌

100万年前に海だった地層で、腐食性の強い粘土質の土壌



▲水道工事の市民向けPR(水道局リーフレット)

■ みどり・環境

★はみどり税を活用しています。

1 公園の整備

新羽丘陵公園と太尾見晴らしの丘公園の拡張整備に向けた設計と調査を行います。

2 公園の改良等

下田町4丁目公園ほか5公園で遊具などの改修工事を行います。

3 緑地の保全（緑地保存地区、源流の森保存地区、市民の森、特別緑地保全地区）★

緑地の保全に向けて緑地保全制度による指定拡大を進めます。また、特別緑地保全地区等の指定・買取りに伴う測量、買い取った緑地の管理に必要な施設整備等を行います。

4 スマートシティの構築

横浜市では、地域防災拠点に指定されている市内の小中学校を対象に、蓄電池を電力会社が設置し、平常時には電力会社が電力の需給バランス調整に利用、災害時には横浜市が地域防災拠点の防災用電力として利用する、「バーチャルパワープラント（VPP：仮想発電所）構築事業」を28年度から進めています。30年度は、港北区内の11の小学校を対象に展開します。

■ 施設

1 文化施設整備事業

区民の皆様が身近に文化芸術に接し、個性豊かな文化芸術活動を活発に行うことができる環境整備のため、身近な拠点となる区民文化センターを新綱島駅（仮称）周辺地区における市街地再開発事業の中で整備します。

30年度は、「横浜市港北区における区民文化センター基本構想」の答申を踏まえ、内装の実施設計を行います。

2 地域施設の整備

市民が安心・快適に市民利用施設等を利用できるよう、30年度は、日吉地区センターのエレベーター設置に向けた実施設計を行います。

3 公衆トイレ整備や喫煙所の整備

昨年度は新横浜駅前の喫煙所の改修・拡張及び新横浜駅北口公衆トイレの改修を行いました。今後、新横浜駅及び競技会場周辺における屋外喫煙対策の検討や、喫煙所などのわかりやすい案内表示を進めます。また、横浜アリーナ公衆トイレの全面改修を行います。

4 横浜国際総合競技場の整備

横浜国際総合競技場（日産スタジアム）では、ラグビーワールドカップ2019TM、東京2020 オリンピック・パラリンピックにおけるサッカー競技の開催に対応するため、フィールド芝張替え等の施設改修や観客席の更新など必要な保全工事を進めます。

発行：港北区役所 区政推進課 企画調整係

電話：540-2230 FAX:540-2209